

令和2年度地域福祉推進会議

会議概要

日 時：令和2年9月24日（木）9：15～11：45
場 所：山崎本社みんなのあいづラザ 3F 講座室
参加者：27名 ※事務局等を含む
（スタッフ：6名、事務局：4名）



～今回のねらい～

第1回会議では、既存アンケート結果からみる地域生活課題の共有を踏まえて、廿日市市での本質的な地域生活課題について考えました。また、地域の福祉を考えた時、解決出来ていないものがあるとなれば、その背景にあるものは何かについて考え、共有しました。

アンケート結果共有・意見交換①（経営政策課） 〔説明：経営政策課 堀江企画員〕

■意見交換のトピック

- 経営－①災害対策は重要
- 経営－②日常生活での移動は重要
- 経営－③地域での助け合いの状況
- 経営－④地域での付き合いを必要としない人もいる

■意見交換（※一部抜粋）

経営－①

地震・風水害の対策について70歳代以上の「対応がなされている」との反応が高いのは、避難行動要支援者制度が要支援者には認識されているが、支援者の認識が低いという結果ではないか。

経営－②

市の自主運行バスを「利用していない」の割合が高いことが問題ではなく、利用したい人がどのように利用したいかを知る必要がある。

経営－③

仕事、家庭、地域生活、個人の生活のバランスに関するアンケート結果について、希望と現実には差がある。家庭の地域生活は、暮らしの要素であるはずなのに、つながっていないことの表れでは。家庭は地域の中で営まれるもの。相互に充実すれば、もっと暮らしやすくなる。

家庭の充実と地域の充実がつながっていることを理解してもらう、実感してもらうことが必要。

経営－④

本人の思いや価値観、環境など暮らしぶりの変化や、地域近所での互助の内容の変化など、地域の構成要素の捉え直しが必要ではないか。

アンケート結果共有・意見交換②（高齢介護課） 〔説明：高齢介護課 阿部専門員 西本主任主事〕

■意見交換のトピック

- 高齢－①きょういく（今日行く場所）ときょうよう（今日の用事）－閉じこもらないために－
- 高齢－②住み慣れた地域で安心して暮らし続けたい

■意見交換（※一部抜粋）

高齢－①

佐伯地域は広範囲であり、公共交通空白地も多い。宮島では地域の乗り合わせに対してガソリン代や自賠責保険を支援するなど、住民・地域主体での移動手段がある。地域である程度公的な移動サービスの提供が可能な体制が取れば良い。

高齢－②

高齢者の閉じこもりは、交通手段だけが解決策ではない。例えば、人に会うこと、話すことが、楽しみならば、出張サロンなどは市社協でも開催されていると聞く、また、オンラインの活用なども考えられる。

高齢－③

在宅生活継続のために必要な介護保険外の助け合いやサービスが不足している。これは20年前と一緒！昔から変わらず、ちょっとしたことが解決することで、自宅で暮らしやすくなる。

高齢－④

空き家問題の多くは、庭の草木が隣家に入り込むこと。それにより、虫、ゴミ溜まりとなり地域課題となっている。「在宅生活の支援」で「庭木のカット」の需要は高く、空き家になる前の段階から不動産業者等と連携し、庭木カットサービスを行うなど、ビジネスチャンスがあるのではないかと感じた。

アンケート結果共有・意見交換③(協働推進課) 〔説明：協働推進課 上田課長補佐〕

■意見交換のトピック

- 協働①新たな担い手と呼び込むための取組
- 協働②対話の機会と状況
- 協働③職員と地域の関わりの変化

■意見交換

(※一部抜粋)

協働①

情報発信は行っている、若者をターゲットにする場合、PR 媒体としてチラシは見ない。SNS でハッシュタグを使うなど工夫して発信しないと響かない。

協働①

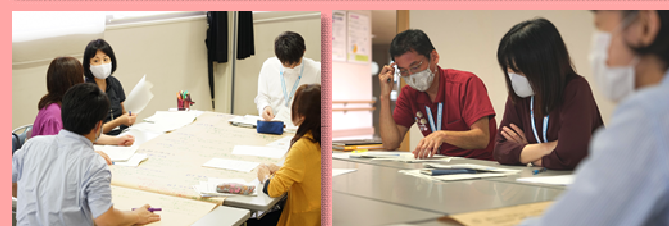
「情報発信について困ることはない」と感じている人が70%以上いることから、課題に気づいていないのではと感じた。また、団体が変化を求めているのでは。それに対して、若者はなじみにくさを感じているのでは。

協働③

まちづくり団体の今後の方向性について課題が多い。持続可能な活動をするためにも、財源確保が必要だが、指定管理や委託事業などが受けられるよう法人化する団体は少ない。地域のニーズに合ったコミュニティビジネス等の収益化も考えられるが、自主財源を増やし、組織を運営するという観点での活動までは難しそうである。

協働③

仕事以外で地域に関わっているかという職員アンケートに対して、市役所職員でさえ、清掃活動などにしか参加しなくなっている。行政担当者の思いと市民のニーズは一致しているのだろうか。行政やまちづくり団体の見直しも必要ではないか。



～全体共有～

↑コーディネーター：ひろしまジーン大学 平尾さん

3つのアンケート結果の意見交換を振り返り、各グループで話し合った本質的な課題について全体で共有しました。

A 行政の取組がうまく行かない原因は、自助・共助・公助の役割分担が曖昧だからではないか。

行政サービスの限界、費用対効果の見込めない事業についてもなかなか切り捨てにくいといった、行政の宿命的課題が、他の課題への投資の妨げの根本的な課題ではないか。だとしたら、根が深い問題だと感じた。

B 地域課題の解決に協力したい人は、意外と多かった。こうした人をターゲットに、地域課題の解決に協力したいという声に働きかけて、地域の担い手として活躍してもらうための仕掛けづくりも今後重要になる。

目的があってこそその交通手段なので、セットで考えなくては、公共交通機関の利用率や満足度にはつながらない。

C 沿岸部と中山間地域の一体的な施策より、地域ごとの特徴に合わせた施策が必要ではないか。また、便利な情報の周知も不足している。これらの周知が広まることで、バスの利用率も高まるのではないかと。まずは、職員が仕事や生活の中で実際に車に乗らない生活をしてみることで、公共交通機関を使うときの大変さや重要度が自分事になって見えるのではないかと。

D 話し合った課題の中身は、昔から変わっていないように感じた。担い手の問題について、人がいないと言うが、退職者は年々増加しており、子育てが落ち着いた世代も一定数いるはずだ。担い手が不足する理由は何なのか、解決できない根本的な原因は何なのか。高齢者になっても働く人が増えた現代では、働きながら地域に関われるレベル感に変えていくところから始める必要がある。既存の団体の他に新たな団体が増えているとすれば、可能性は増えるのではないかと。